



門松

門松の由来については、いろいろの説がある。神に青木の枝を手向けたり、木の梢を神の宿るところとするのは、わが国古来の考え方からきている。門松は、ここに年神を迎えて祭るのが本義であるらしい。

地方によっては、檜・椿・朴・栗・榊など各種の木を門に立てるところもあるという。本来、常緑樹なら何でもよかったようだ。

土佐日記の書かれた頃(935年)の都では、榊が用いられていたらしいが、100年も経つと松が流行して、以来ずっと続いている。そこへ竹が添えられるようになったのは鎌倉時代以降のことらしい。

とにかく、今年も松にあやかっ、ひたすら待つとしよう。「果報は寝て待て」というのではないか。

今月のおもな行事

- 4日 御用始め
- 15日 成人の日
- 16日～17日 統計事務改善研究会(いこいの村瀬沼)
- 16日～18日 常住人口調査市町村事務打合せ(水戸・土浦・下館)
- 18日～19日 労働力調査第2次ブロック事務打合せ(長野県)
全国統計資料室事務担当者研修会(東京)
- 30日 全国統計主管課長会議(行政管理庁)

年頭にあたって

茨城県知事
茨城県統計協会総裁

竹内藤男



あけましておめでとうございます。

知事に就任いたしましてから早くも4度目の正月を迎えました。

皆さまも日々の生活の中で実感されているとおり、わが国は戦後の発展によってかなり豊かな生活ができるようになりました。

そして今や、豊かな生活という一つの目標に向かって全国民が必死になって走ってきた時代は終わり、それぞれに特色を持った暮らしよい地域づくりを進めようというように流れが大きく変わっております。地方自治というものが本当の意味で見直されていると言えるでしょう。

このような時代にあって、わが茨城の将来を考えると、大きな発展可能性を持っていると言えますが、私はこの茨城県が持っている発展可能性を有効かつ計画的に引き出しながら、将来の発展基盤をしっかりと整えていくことが私に課せられた最も大きな使命であろうと考えております。

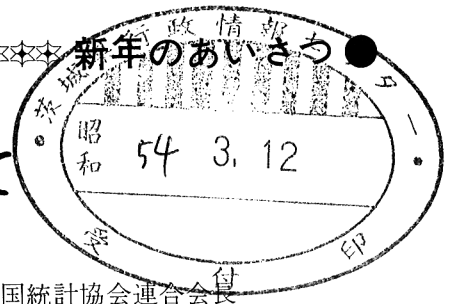
ことに、諸施策の計画・推進にあたり、現状分析や問題点の認識には欠くことの出来ないものとして、統計指標の効用に多大の期待を寄せるものであります。

そして新年にあたり、これまでの実績を基礎に、なお一層の発展をめざして力いっぱい努力していきたいと心を新たにしております。

どうか県民の皆さまにおかれましても、一人ひとりが郷土茨城の豊かな明日を築くために、本年もこれまで以上に力強いご支援とご協力をくださいますよう心からお願い申し上げまして年頭のごあいさつといたします。

昭和54年元旦

新春を迎えて



有澤 廣 巳



あけましておめでとうございます。

皆様それぞれに佳き新春をお迎えのことと存じ、こころからお喜びを申し上げます。

昨年の盛岡市で開催された全国統計大会で、私が「志ある者は、必ず報われる」と古人の言を引用してお話しましたが、新年に当たり、もう一度この言を思い起こしていただくと共に、今こそわれわれは、終戦直後国の再建は、統計の整備からと誓い合ったあの当時の初心に立ちかえり、日本経済の第二世代は、統計の向上をもって築かれると覚悟を新たにしようではありませんか。

1979年も、内外を問わず、経済社会をとりまく諸情勢は、極めて厳しい年でありましょう。この結果、迅速にして的確・精緻な統計調査への要求は一層高まってくるのは必然であります。

われわれ統計関係者の任務は、旧に倍して重く、きびしいことでしょう。

それだけに、われわれの統計調査活動の価値も、より高く評価され国民の関心もそこに集まってくるであります。

この際われわれ統計関係者は、思いを新たに、いかなる困難をも克服して業務に邁進しようではありませんか。

陽光に輝く日々を待つ新春は、志をたて決意を新たにするにふさわしい時であります。

もろもろの困難を克服するために、紅顔の少年のごとき純粹さをもっての統計への一層の献身が、それぞれのこころに誓われることを、そして同時に皆様のご健康を二つながらこころから祈念して新春の御挨拶といたします。